

0157

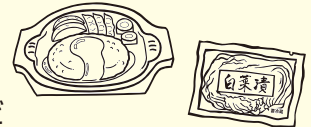
に気をつけましょう!!

腸管出血性大腸菌0157食中毒対策

0157は、健康な牛などの家畜でも保菌している場合があります、これらの糞便に汚染された食肉や野菜、飲用水などが原因となる可能性があります。

過去の食中毒原因食品（推定含む）

牛ユッケ、牛タタキ、牛レバー刺し、ハンバーグ、角切りステーキ等焼肉、イクラ醤油漬、井戸水、白菜漬、きゅうりの浅漬、冷凍メンチカツなど



食肉の生食には気を付けましょう。

生食用食肉の成分規格を満たした牛肉以外は生で食べないようにしましょう。
また、規格を満たした牛肉であっても、お子様や高齢者は生食をひかえましょう。
牛レバーは、平成24年7月から生食用として 販売・提供することが禁止されています。

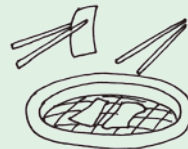


生野菜、果物などはよく洗う。
食用に供する肉や内臓は中心部が75℃以上1分以上になるようによく加熱する。

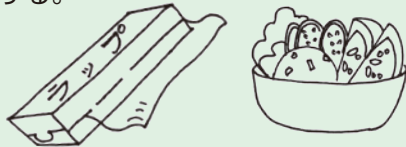


焼肉やバーベキューのときは、

焼く箸と食べる箸を分ける。



調理済みの食品は、ラップ等で覆いをして保存する。



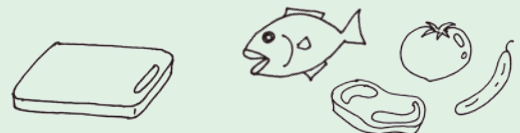
調理や食事の前には必ず消毒用せっけん液でよく手を洗う。



調理器具は必ずよく洗い、熱湯や塩素系消毒剤で消毒する。



まな板、包丁などの調理器具は、肉・魚・野菜用に使い分ける。



腸管出血性大腸菌0157とは？

大腸菌は人や動物の腸内に存在し、通常病原性はありません。しかし、いくつかの大腸菌は人に対して病原性があり、これらを下痢原性大腸菌と呼んでいます。腸管出血性大腸菌0157も下痢原性大腸菌の1つです。

裏面：症状と感染対策

0157感染症の症状

潜伏期間：平均3～5日

症状：激しい腹痛、水様性の下痢（血便を伴うことがあります）、HUS*
症状から感染が疑われたら、すぐに医師の診断を受けましょう。

* 溶血性尿毒症症候群（HUS）＝急性腎不全、血小板の減少、貧血の3つの症状を特徴とする症候群
乳幼児や小児及び高齢者は、0157の感染によりHUSを引き起こしやすいので、特に注意が必要です。



感染対策 患者から家族への二次感染や、動物との過度な接触によっても感染の危険があります。

トイレの後は、**しっかり手洗い。**



消毒用せっけん液を使用しましょう。
患者とのタオルの共用は避けましょう。

トイレ等のお世話は要注意。



患者の便や吐物を処理するときには、直接触れないように。
お世話の後は、すぐに手を洗いましょう。

衣類は分けてお洗濯。

患者の便で汚れた下着、衣類、寝具は、他の家族のものとは別に洗濯します。



塩素系漂白剤や煮沸で消毒しましょう。
よくすすいで日光でよく干したり、乾燥機を使用したり、入念にアイロンをかけるのが効果的です。

入浴方法も気を付けて。



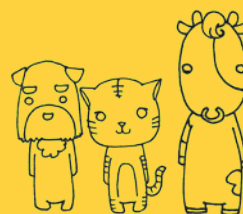
入浴の際は、風呂の湯につかる前に、まずおしりを洗い、病原体を落とします。
下痢のある患者さんの入浴は一番最後にします。
他の家族との混浴は控えましょう。
風呂の水は毎日かえて、浴槽や風呂の床、洗面器、椅子なども清潔に掃除をします。
タオルやバスタオルの共用はやめましょう。

トイレの掃除と消毒を。

下痢便の飛沫が付きやすいところは、こまめに掃除をし、必要に応じて消毒します。
ドアノブなども消毒しましょう。



動物とふれあった後は手を洗おう。



ペットや動物との過度な触れ合い（口移し等）は避けましょう。
また、動物を触った後はかならず手を洗いましょう。